

医業の現場から 経営

file074 中国・四国地区

コメディカル3人を配置し 診察室を移動しながら診療

コメディカルとの 出会いが転機に

サンポート高松クリニックの井垣俊郎院長は、医師になって30年余、一貫して糖尿病・生活習慣病の診療に携わってきた。「糖尿病は、患者の家庭や社会的なバックグラウンド、性格などを診ないと診療になりません。しかし、限られた外来の枠の中でどれだけの患者が診られるか。患者のバックグラウンドを分析している時間もなく、糖尿病の外来が苦痛になっていった」と振り返る。

そんな中、コメディカルとの出会いが大きな転機となった。「医師には患者から情報があまり入ってきません。ところがコメディカルが間に入ると、得られる情報量が全然違うことに気

づきました」。それから、コメディカルの力をどう引き出し、一緒に取り組むかが大事だと考えるようになったという。

丸亀市の総合病院に勤務した際、病院から「外来に活気を取り戻すためなら何でもやってほしい」と言われ、専属のコメディカル3人(薬剤師、栄養士、看護師)を配置して診療を開始した。それぞれに診察室を与え、患者はそこで10分程度話した後、井垣氏が入室する。3つの診察室を順に移動しながら診療したところ、患者からの情報量が全く違うことにあらためて驚いた。

「患者の担当は固定していたので、薬剤師が食事の話もするし、栄養士も薬の話をする。専門性よりもいかに患者と信頼関係をつくるかが大事なのです」。

このスタイルは井垣氏が独立するまで10年間続いた。患者はもちろん、病院の評価も高かったことがうかがえる。

糖 尿病専門医として 貢献したい

開業を考えるようになったのは、「もっとできるのでは」との思いが湧いてきたこと。「やはり糖尿病は進んでからでは遅い。健診で異常を指摘されて受診した人ははるかに治療効果が大きい。ならばそういう人たちを診た方が経験を生かせるのではないかと」。もう一つ、1型糖尿病への強い思いがあった。「松江赤十字病院におられた武田倬先生に20年間、糖尿病キャンプや学会などでいろいろ教わってきましたが、そこで学んだことを生かしたいと思っていました」。この2つが井垣氏の開業を後押しした。

診療所での勤務経験から、「優れたスタッフがいれば少数



3つの診察室の“マスター”は、栄養士、薬剤師、看護師。井垣院長はバックヤードから各診察室を行き来する

サンポート高松クリニック 概要



- 所在地 香川県高松市サンポート 2-1
マリタイムプラザ2F
- 院長 井垣 俊郎
- 診療科目 内科、糖尿病内科



今の診療スタイルは、患者から「看護師さんがかみ砕いて言ってくれたので、先生の言っていたことがようやくわかった」と言われたことが契機になったと井垣院長は話す



左が看護師の頼富さん、右は薬剤師の住吉さん。「栄養士は食事療法のリーダー、薬剤師は薬物療法のリーダーというように、それぞれがリーダーになってチームのレベルを上げてくれます」と井垣院長は理想的なスタッフ構成に満足気だ

精鋭でいける。スタッフは3人、健診で異常があった早期や1型を診られ、駅に近い立地。この3つの条件が揃えばと考えていました。すると、この場所を医業経営コンサルタントが紹介してくれたという。「『ここはネット情報になかったですね』と聞いたら、『私が探して価格交渉もしてきました』と言われました。この条件ならと思い、開業を決めました」。

理想とする 診療スタイルを貫く

糖尿病治療について井垣院長は、「患者さん自身がコントロールをマスターしたらかかりつけ医にお返しして、『もし悪くなったらまた来てください』と言うのが理想だと思います。健診で異常が見つかった初期や、治療経過が思わしくない時に相談に来てもらう。だから糖尿病は大きな病院で診る病気ではないし、入院の必要もない。教育入院に頼らず個別のニーズに応えられる外来診療を目指していきたいですね」と断言する。



JR高松駅から徒歩約3分。高松港再開発地区に整備された複合商業施設サンポート高松のホール棟（写真右手ビル）2階で開業

5年後、10年後の展望についてお聞きしたところ、「当院を卒業した糖尿病患者さんを近くの先生に戻し、その先生からまた紹介が広がってくれたら。とくに1型は注意深くコントロールしないといけないので、1型はサンポート高松クリニックだと言ってもらえる存在になれたら」とのこと。

また、地域医療について、「コメディカルスタッフがクリニックを離れて地域の中で、自分のペースで食事や薬の相談を受けクリニックに患者に送る——医療から少し離れたところでも健康づくりに貢献できるシステムができれば面白いですね」と、将来の姿を描いている。

医業経営コンサルタントは 心の支えにも

井垣氏は開業前、コンサルタントから、開業後のシミュレーション



院長 井垣 俊郎 氏

1988年金沢大学医学部卒業。1990年～高松赤十字病院で研修。1993年京都大学医学部大学院で動脈硬化と運動の基礎研究、1997年公立豊岡病院内科医長、2006年康生会武田病院糖尿内科部長、2008年まるがめ医療センター糖尿病センター長を経て、2019年6月サンポート高松クリニックを開院。日本糖尿病学会糖尿病専門医、日本内科学会総合内科専門医。

を見せられた際には半信半疑だったというが、現状はほぼ予想どおりの経過を辿っているという。

「医業経営コンサルタントの方が言うように頑張れば、やっていけると、心の支えにもなっています。医療以外のことは素人なので、広告やホームページなど細かなことでも助けてもらっています」と信頼関係は確かなようだ。COVID-19の影響も心配したほどではなく、紹介患者も順調に増えている。



複合施設内の通路に面した壁面掲示板。たびたび書き換えているという院長手書きの「板書」には思わず目がいく